大圧協新聞

大阪生コンクリート圧送協同組合
〒552-0007
大阪市港区弁天1-6-8　オレンジビル2F
(TEL) 06-6599-5530 (FAX) 06-6599-5537
(Email) pump@daiatsukyou.com
(URL) http://www.daiatsukyou.com/

総合的な経営戦略を構築すべき時

大圧協のＣＳＲ宣言

この間、姉歯設計事務所の構造計算書偽造問題が、エンドユーザーの生活破壊や強制捜査も相俟って、大きな社会的関心を呼んでいる。コンクリート構造物に対するコンプライアンス（法令順守）と品質確保の取り組みが一層求められて来る。大圧協においても最重点課題の一つが、コンプライアンス。しかし、05年、全圧連のコンクリート圧送施工技能士試験問題漏洩事件ばかりか、大圧協自体も共同受注で圧送工事をする組合員一社において全圧連統一安全技術講習を一人も受けていない事実を見逃していた現状を鑑み、より社会的責任を明らかにする必要があると考え、CSR(Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）宣言を発する。

今日では企業の価値は、経済・社会・環境の三点を尺度として計られる。

〈経済〉　企業の持続可能な発展には必要十分な利益が不可欠。原価構成を明らかにし、必要最低限のコストを計上（ポンプ車両や部材などは勿論、安全施工や品質管理や技術向上、研究開発コストも含める）し、基本料金制に基づく標準圧送料金の収受をはかる。共同受注事業の進展こそが社会的責任を果たせる基盤。

〈社会〉　労働条件の改善・安全・衛生、人権、工事・品質管理責任等々がある。また、ステークホルダーに対する適切な対応が求められている。

〈環境〉　できる範囲で、環境に対する積極的な提言をしていくべき。ホースやチューブの処理や残コン処理について努力すべき。

まずは、私たち自身が自立した主体として、ゼネコンにお願いばかりするのではなく、圧送技術や安全施工において、圧送のプロフェッショナルとして自分に何が提言できるのかという観点をたえず持っておくべきと考える。

大圧協は宣言する

1. 共注事業・配車取引システムの維持発展－持続可能な成長を果たします。
2. 施工検討会議の開催（やっている所とやらない所の差があるのです）。生コン圧送にあたって、生コン工場・生コン輸送・鉄筋・大工・土工など関係者が集まり会議していくべきです。その際、創出されたコンクリート圧送基幹技能者を活用します。この実施すなわちリスクマネジメントになります。
3. 圧送負荷計算、機種選定などが自動的にできるソフトを作り、不慣れなものでも配管長さや生コン配合表の数字を入れれば、その場で結果がでるソフトを開発します。そのソフトを速やかに制作し、現場で有効利用するのです（価格の算定もできるので、営業にも使える）。
4. コンクリート圧送労働者の技能的水準の底上げ・平準化と維持（後継者養成）のための、圧送技能・実技学校を作ります。打ち方や安全確認の規格・基準を作る必要があります。圧送施工技能士一級や基幹技能者・職業訓練指導員（建設科）資格を有する者を学校の指導者とし、その養成も行います。
5. ブーム車の超音波探傷検査を毎年実施します。大きな負担となりますが、未然に事故が防げることは労働者の生命を守ることに通じるので、避けるわけにはいきません。同時に、事故が発生した場合の損害からいっても、長期的には合理的です。また、何よりお客様に迷惑をかけない姿勢こそ大切です。
6. 全圧連・統一安全技術講習会、特別教育などの最低限の教育を修了しない者は、協同組合の共同事業に参加させません。
7. 高強度生コンなどの対応をはじめ、コンクリート圧送の技術問題に継続して積極的に取り組みます。日本建築学会近畿支部材料施工部会への研究依頼、第三回圧送技術研究会の開催などを継続していきます。
8. 発注者であり監督官庁である大阪府土木部などとの「圧送勉強会」を継続します。
9. ステークホルダーとの協議を強め、ポンプメーカーとは制振装置などポンプ車の開発に協力します。また、圧送性と品質管理の観点から生コン工場などとの協議も進めます。
10. ホースやチューブの再利用や合法的回収を徹底します。